

登録コード:MH131400 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 選択
科目名	小児の発達障害と看護【20M・21M】 Neonatal Nursing		
担当教員	中山 佳子 下里 誠二		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/4年 後期 木曜・5時限		
単位数、講義室	1単位	保健学科211講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔ 授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。	⇔	新生児看護に関する専門的知識と技術を基盤として、保健・医療・福祉の現場における自己の役割と責任を自覚し、倫理観をもって行動できる能力を養う。また、助産師・保健師・看護師それぞれの専門性を理解・尊重し、多職種と円滑にコミュニケーションを図りながら、チームの一員として新生児と家族を支える協働的実践に主体的に参加できることを目標とする。また、保健・医療・福祉の現場において発達障害のある子どもと家族を支えることができる。
授業で学べる「テーマ」	多文化協働、健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	ハイリスク新生児の病態や疾患に関する高度な知識を深め、新生児医療における看護実践のための技術の習得を目指します。また、保健・医療・福祉の現場において、助産師・看護師・保健師がチーム医療の一員として果たす役割を学びます。事例検討では倫理的課題や多職種連携の視点から新生児看護について議論します。発達障害や難病をもつ子どもと家族への保健・医療・福祉のあり方および支援について学修します。 本授業は、1年次に学んだ「遺伝と病気」、2年次に学んだ「小児発達健康論」、「小児発達看護学概論」、「母性看護学概論」、「母性看護健康論」、「母性看護方法論」、「公衆衛生看護学概論」、「公衆衛生学」、3年次に学んだ「小児発達看護方法論」、「助産診断・技術学Ⅰ（分娩期・分娩介助）」、「助産学概論」、「助産診断」、「精神看護学方法論」、「公衆衛生看護学支援論Ⅱ（個別・集団支援の応用）」、「公衆衛生看護学支援論Ⅲ（母子・成人・精神・感染症等各論）」の知識を前提とし、3年次の「母性看護実習」、3・4年次の「小児発達看護学実習」の実践を前提とします。4年次の「助産管理」、「助産診断・技術学Ⅱ（周産期医学）」、「助産診断・技術学Ⅳ（ハイリスク妊産褥婦）」、「助産診断・技術学Ⅴ（助産ケアと生命倫理）」、「助産学実習Ⅰ（分娩介助・妊産褥婦新生児ケア）」、「公衆衛生看護学実習」、「公衆衛生看護学支援論Ⅳ（支援技術）」の内容と相補的に学んでいくことになります。 本授業は担当教員の医療機関等での実務経験を活かして講義を行います。 本授業は男女共同参画に関連する内容が含まれます。		
授業計画	第1回(10月1日)新生児の血液・免疫疾患（中山） 第2回(10月8日)新生児の発育栄養管理、消化器疾患、内分泌代謝疾患（中山） 第3回(10月15日)新生児に治療を要するその他の先天形態異常（中山） 第4回(10月22日)新生児の呼吸器疾患、循環器疾患、感染症（中山） 第5回(10月29日)新生児医療とうつ病の看護（下里） 第6回(11月5日)新生児の中枢神経障害（中山） 第7回(11月12日)NICU看護（信大NICU看護師） 第8回(11月19日)GCU看護（信大GCU看護師） 第9回(12月3日)新生児救急蘇生法①（信大NICU医師）事例検討（中山） 第10回(12月10日)新生児救急蘇生法②（信大NICU医師）事例検討（中山） 第11回(12月17日)ハイリスク新生児の退院支援（中山） 第12回(12月24日)発達障害の子どもの診療の実際（中山） 第13回(1月7日)精神発達遅滞をもつ児への看護、福祉、介護支援（中山） 期末レポート提出（中山） 第14回(1月14日)まとめ（中山） 第15回(1月21日)授業アンケートの実施（中山）		
授業の進め方	スライド、配布資料を用いた講義を行います。 新生児救急蘇生法はシミュレーターを利用した演習を行います。 事例検討はグループワークを行い、グループワークの成果を発表します。 2グループに分かれ、新生児救急蘇生法と事例検討は各1回の参加となります。		
テキスト、教材、参考書	参考書 新生児学入門 第6版 仁志田博司著、医学書院 小児臨床看護各論 第15版、医学書院		
成績評価の方法	成績は期末レポートと新生児蘇生法演習および事例検討のグループワークから総合的に評価します。 総合的評価の配分は期末レポート70%、新生児蘇生法演習15%、事例検討のグループワーク15%とし、総計の60%以上の得点を合格とします。		
成績評価の基準	期末レポート、新生児蘇生法演習、事例検討のグループワークによる判定基準は以下の通		

成績評価の基準	りとします。 90-100点：秀、80-89点：優、70-79点：良、60-69点：可、60点未満：不可 期末レポートは70点満点とします。その評価は、(i) 問題の設定が適切である、(ii) その問題背景を説明できている、(iii) その問題にどのような課題があるかを指摘できている、(iv) それらの課題に対して解決法を適切に把握できている、(v) その上で自己の見解を提示できている、(vi) チーム医療の一員としての役割が示されている、(vii) 患者家族の視点が考慮されている。以上の項目について、各10点で評価します。 新生児蘇生法は15点満点とします。その評価は、(i) 自発的な参加ができている、(ii) 基本的な手技が習得できている、(iii) チーム医療の一員としての役割が果たせている。以上の項目について各5点で評価します。 事例検討のグループワークは15点満点とします。その評価は、(i) 協働的・建設的に参加している、(ii) 課題に対して論理的かつエビデンスに基づく議論ができている、(iii) 発表内容が実際の医療において妥当である。以上の項目について各5点で評価します。
事前事後学習の内容	事前学習：毎回授業の終わりに次回までに学習すべき内容について説明します。 事後学習：毎回授業の始めに前回の授業の要点について質問をしますので、準備して授業に臨んでください。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間 ※以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	新生児期に特有の疾患と看護ケア、発達障害について学びます。将来の専門職に応じた視点で学ぶことを期待します。外部講師として新生児集中ケア認定看護師による講義、新生児科医による演習を予定しています。 質問への対応 中山佳子 ynaka@shinshu-u.ac.jp 要事前予約 研究室保健学科中校舎4階 下里誠二 sshimos@shinshu-u.ac.jp 要事前予約 研究室保健学科中校舎4階